

(徳島県文化財保護審議会から答申を受けた文化財)

種 別	名 称	員 数	所 在 地	所有者及び管理者
史 跡	土成丸山古墳	一基	徳島県阿波市土成町 高尾字熊の庄 110-1 他	阿波市他

参考

【土成丸山古墳の概要】

土成丸山古墳は、阿波市の東端、上板町との市境の阿波市土成町高尾に所在し、県道139号 船戸切幡上板線の南側に接し、扇状地扇端の標高約24.5mの平野部に位置している。

阿波市教育委員会により平成18年度より発掘調査が実施され、その結果、墳丘裾部は開墾により削平を受けているが、盛土による周濠を持つ2段築成の円墳であり、その規模は墳丘の長軸45.9m、短軸42.3m、第2段端部直径が約30.2mであることが確認された。また、主体部は富山大学によるレーダー探査により、東西約3～4m、南北約2～3mと推定され、竪穴式石室である可能性が高い。

出土遺物は円筒埴輪や形象埴輪等の埴輪片であり、赤色顔料を塗布した痕跡が認められるものもある。埴輪の編年より古墳の築造時期は、5世紀中葉頃と考えられる。

土成丸山古墳は、昭和46年に土成町指定史跡に指定されており、平成17年の市町村合併により、現在は阿波市指定史跡となっており、阿波市により適切に管理されている。